

志多留での「島っこ留学」受け入れで目指すもの

一般社団法人対馬里山繋宮塾 藤川あも 川口幹子

食べる野菜は自分の手で育てます。野菜を一から育てることで、食べ物の成り立ちや、生産の苦勞・喜びを知ります。そして、自分たちは何によって生かされているのか学び、そのありがたさについて、暮らしながら身につけていきます。



生きものが多く集まる田んぼ。田んぼを管理することで、いきもの同士の関わり合いを感じると共に、ツシマヤマネコの生息環境を守ることにも繋がります。米作りを行うことで、自然の中で自然と共に暮らす難しさ、面白さを知ります。

暮らしの中で身につける

命あるものを育てる。ニワトリの卵を採ったり、肉を食べることで、普段私たちは命を頂いているということ再認識します。また、鶏を飼うことで、野菜のくずなどは餌に、鶏糞は畑の肥料となるため、自然の循環が生まれます。



地域のお祭りなどに参加し、住民と交流する。野菜作りを教えてもらったり、農作業を手伝ったりしながら、暮らしの達人たちから生きる知恵と、対馬の文化について教わります。子どもが増えることで、地域に活気が生まれます。

年間行事予定表

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
入学式・始業式 お花見・避難訓練	ピクニック	田植え 釣り大会	ミニキャンプ	平和集会	運動会 天地返し	秋の大運動会 避難訓練	芋ほり大会 文化祭・学習発表会	しめ縄づくり	そば打ち	しいたけ狩り	卒業式・修了式

休日の過ごし方



休日は、釣りや野菜の収穫、磯遊びなど自由に自然と触れ合います。また、近所の子もたちを集め、周りの環境を活かした、自然観察会やネイチャーゲームなどの、自然体験プログラムを行います。

我々が目指すもの

私たちは、対馬の自然環境と、地域の人々の知恵と技術を活かして、暮らしながら自然と文化を学べる場づくりを行っていきます。

- 対馬で過ごしたことが原体験として心に残り、その後の人生の糧となる
- 暮らしを作る体験を通し、生きものとしての喜びを感じ、生きる力を身に付ける
- 周囲の自然の変化や豊かさに目を向け、感謝できるようになる
- 対馬が第2の故郷となる

そして、将来持続可能な社会を目指せるような人材となり、地域づくりや農林水産業の現場で活躍できるような人が生まれていくことを望んでいます。



【背景】

核家族化が進行し、都市生活者が増加した現代社会では、子どもが自然の中で遊んだり、生産に携わったりする機会は極端に少なくなっています。自然の楽しさやそこから得られる恵みを感じられないまま大人になり、自然への敬意も生まれず、農林水産業の担い手になるという発想すら起らない。そのような人が増えていくことは、とても危ういことです。

対馬は離島であるがゆえに、山・里・海がコンパクトにまとまっており、伝統的に半農半漁の暮らしが営まれています。いわば周囲の自然の恵みを最大限に生かした生活を送る「暮らしの達人」がたくさんおり、自然と共に暮らす知恵と技術を学ぶことができる豊かなフィールドと言えます。

【島っこ留学とは】

対馬市では、対馬特有の自然環境及び歴史文化、国際交流等の中で、豊かな学びと地域における体験活動等を願う島外の方を対象とした離島留学を、平成29年度から実施している。対馬市内の小学校・中学校に入学または転学を希望する児童・生徒を受け入れ、対馬市の学校の活性化と教育の振興・充実、及び地域の活性化を図ることを目指している。